

【研究概要】

S1P 輸送体を標的として細胞遊走の制御による免疫反応、がん転移の制御を目指した創薬研究

産業科学研究所・西 毅

スフィンゴシン 1 リン酸(S1P)は哺乳動物においてリンパ球の血中への移行を制御しており、S1P 受容体を標的とした化合物がすでに多発性硬化症の治療薬として用いられている。我々はこれまでに S1P 受容体に S1P を供給する S1P 輸送体を同定し、この輸送体が直接リンパ球の血中移行を制御することを示してきた。この輸送体の機能を制御する化合物が新しい自己免疫疾患などの治療薬となりうると考えて開発を行っている。